

安心して暮らせる町へ

しゃかいどうわきょういくこうざ 社会同和教育講座

今年の夏は、各地で大雨の被害に見舞われるなど、不安定な夏でしたが、9月に入り朝夕がめっきり涼しくなり、日ごとに秋の気配を感じる季節になりました。

人権プラザ天白では、去る9月3日(日)に社会同和教育講座をヒューリアみえや県教委人権教育課を経られ、現在市教委人権・同和教育課に所属されています、金原正紀さんをお迎えし、見出しの演題にてご講演いただきました。金原さんは、最初に「知ることの大切さ」をお話され、関係する人だけが知っている、多くの人が知らなければその効果やねらい・目的が達成されず、知らないことで「自分の気づかないうちに誰かを傷つけてしまっているかもしれない」ということをお話いただきました。同和教育も多くのひとびとに知ってもらうことが必要であり、知らずに傷つけることを減少させることだともお話しされました。差別は、差別される人はもとより、差別される側の周りの人達や差別する側の周りの人々にも、嫌な思いや不安や心配をつきまとわせます。差別する人が、合理的な判断基準もなく、差別したいとき、都合の良い基準をもっともらしく設けて、差別を繰り返すというようなことで差別が生まれます。このような差別をなくすために差別について知ることや対話していくことから、関係づくりや仲間づくりを推し進め、差別はなくなるといふ展望を持ち、学び続ける大切さをお話いただきました。そして、最後に「部落差別がなくなる」ことこそが、「誰もが安心して暮らしていける町」になりますと結論づけられ、あっという間に約1時間30分が経過し、とても有意義な時間を過ごせたように感じました。

